

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校・地域に愛される学校をめざす。 1.学力の向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上） 2.コミュニケーション能力の向上 3.地域連携の推進

2 中期的目標

1 学力の向上（学ぼうとする力の育成） （１）本校生徒に対して『授業のユニバーサルデザイン化（以下UD授業）』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。 ア 本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通した指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。 イ 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。 ウ ICT機器の活用をすすめ、プロジェクターを活用できる環境を整備して、教員の授業改善を行う。 エ 規律ある授業が行えるよう、遅刻削減に取り組む。 ※（令和6年度に遅刻総数の年間5000件以下となるよう努める）（R1：6259、R2：6438、R3：5134） （２）生徒の学習習慣を確立させることを通して、生徒の学習意欲を向上させる。 ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。 イ 読書習慣を確立して、読み取る力の向上に努める。 ウ ICT機器を活用し、わかる授業で年度末の成績不振（欠席30日以下の生徒）を無くす。 （３）生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。 ア 義務教育段階の学力習得を目的とした茨田検定（振り返り学習）・「基礎教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。 イ より発展的・応用的な学力の習得をめざす生徒に対する授業内容を充実し、授業以外の講習などを積極的に実施する。 ウ キャリア教育の一環として生徒の進路に応じた講座を充実させ、それぞれの進路希望を実現させる。 ※（生徒の進路が多様化するなか、令和6年度も進路決定率90%を超えるよう努める）（R1：87.1%、R2：85.2%、R3：84.5%）
2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出 （１）安心・安全で、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。 ア すべての教職員のコミュニケーション指導力を充実し、いじめの早期発見と組織的な対応に努める。 イ 教職員ピアメディエーション（以下「PM」）研修を実施し、PMの理解促進及び普及を図る。 ウ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。 エ 安全・安心な学校づくりのため、災害や新たな感染症などに対応した危機管理意識の醸成を図る。 （２）生徒のコミュニケーション能力向上を図る ア 生徒コミュニケーション能力の向上を図る機会を充実し、いじめを起こさない生徒の育成に努める。 イ コミュニケーションコースの内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。 ウ 英語などによるコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図る。（カルチャー・デイによる異文化理解、プレゼンテーションを意識した英語授業） エ 面接指導等の進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。 オ 障がい者に対する理解を育て、思いやりがある生徒の育成に努める。 （３）教員の資質の向上 ア 校内外の研修を積極的に活用し、人権意識を高め、生徒に寄り添い課題を解決できる教員の育成に努める。 イ 食物アレルギーや新たに起こる感染症などに対応し、生徒・教職員の安全と、学校行事や学びを守る取組みに努める。 ウ 家庭や中学校、福祉との連携を行い、組織として中途退学や不登校の未然発生に努める。 エ 学年会・教育相談委員会・生徒指導部会などで情報共有し、生徒理解のための指導体制を確立する。 ※（令和6年度に1年生の退学者を15%以下となるよう努める）（R1：16.9%、R2：25.7%、R3：21.8%）
3 地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校） （１）地域連携を通した生徒の成長 ア 地域に育んでいただいた感謝の思いを持ち、地域貢献のための活動に参加する。 イ 地域の一部として活動を支えてもらうため、地域の人々を学校に招聘して理解を深めてもらう。 （２）中学校との連携の充実 ア 学校の活動を広く理解してもらうため、学校HPの充実に努める。 イ 在校生の成長過程をより知ってもらうため、中学校との連携の充実に努める。
4 校務の効率化で働き方改革の推進 （１）ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。 ※令和6年度に時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒・保護者の回答においてほとんどの項目が上昇しており、学校への運営面や方針等に共感を得られてきている。 （１）生徒向けの診断 ・生徒指導や教育相談に関する項目で肯定率の上昇が見られ、特に「担任以外にも相談できる」の項目で約10%上昇した。教育相談を担う養護教諭の傾聴の現れであると思われる。 ・生徒の満足度を上げるために「行事」と「進路」に力を注ぐことを今年度の課題としていたが、それらの関連項目も肯定率が上昇している。	☆第1回（令和4年6月30日実施） 生徒数が減少するほどにクオリティの高い指導ができると期待している。生徒たちの自己肯定感を高めるためにも生徒の長所をみつけて褒めてあげることに努めてほしい。勉強だけでなく、行事や部活動などで褒めるところを積極的に見いだす取組みがあるとよい。 生徒たちの言葉に重点をおき、話をするときにどうすれば伝わる話し方なのかに心を砕く。これこそ茨田のめざすコミュニケーションの教育である。 いじめ防止の取組みについて、生徒たちに「先生に言っても無駄だ」と感じさせないことが重要で、生徒にフィードバックすることが必要。そうでなければ小さいサインが見え

府立茨田高等学校

（２）保護者向けの診断 ・全体の回答率が約 50％であり、回答率上昇への取組みが必要と感じる。 ・学習の評価や生徒指導に関する項目では肯定率が上昇しており、一定の理解が得られたものと思われる。 ・「保護者の相談に適切に応じてくれる」の項目では大きく肯定率が上昇したが、「家庭への連絡を積極的に行っている」では昨年より低下し、更に丁寧な家庭連絡を徹底したい。 （３）教職員向けの診断 ・「学習指導計画について話し合っている」、「教材の精選・工夫」の項目で昨年度より大きく低下したのは、昨年度に活発に議論していたことによるものと思われる。 ・「問題行動に対応する体制の整備」について肯定率が低下しているが、教員間の連携や迅速な対応ができなかったことに起因している。 ・「活性化に向けた取り組み」についての肯定率が低く、一部の教員のみの動きではなく、全体で取り組むよう意識していく。	ない。 新型コロナの影響の２年間で壊れた人間関係など、経験不足に対して危惧している。教員の「聴く力」を養成する重要。聴いてあげる余裕づくりもして欲しい。 閉校に向けて PTA や地域を巻き込んで３年後に素晴らしい閉校式が行われることを望んでいる。 ☆第２回（令和４年 11 月 10 日実施） 生徒には地域のイベント等で本当にお世話になっている。部活動が下火になっているのは非常に残念で、部活動の充実を図ることで自己肯定感を高めることにつながると思う。 進路について「自己開拓」をいかに減らすかが重要と考える。学年・進路指導部が強い思いで生徒に関わることで生徒も自信をつけていくものと思う。 「生徒に寄り添う」というのは「してあげる」と思いがちだが、何気ない会話でも十分で寄り添うことはできる。「警察以外に家庭に入り込めるのは先生だけである。」という気概をもって生徒に対応してもらいたい。 ☆第３回（令和５年 1 月 26 日実施） 先生様ではいけない。子どもたちには自信がない。自己有用感を生徒に感じさせることには、あの手この手を繰り出さなければならない。 問題行動等が多いと、それをする余裕がない。そんな中「先生様」ではなく、生徒との対話を重視した生徒指導を粘り強く続けていく必要を感じたため、コミュニケーションの取り組みを導入した。生徒の気持ちを受け止めて、粘り強く対応してきた成果が出ているように思う。 授業は伝達ではない。生徒を感化させる授業が重要。その生徒の人生に影響をあたえられたかを、教員自身が追求しなければならない。生徒の前向きなモチベーションをどう起こすか。人と人の関わりのなかでしか生まれないものである。 生徒獲得に努力してきた茨田高校。茨田を巣立った生徒の心にいつもまでも残る学校であってほしい。茨田高校で得たものは絶対に無駄にはならないと思う。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 3 年度値]	自己評価
1 学 力 の 向 上	1)『UD 授業・楽しい授業・規律ある授業』の実現に向けた教員の授業力向上	1)	1)	1)
	ア 本校勤務年数が少ない教員への OJT の実施	ア 担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となり、若手育成に当たっている研修組織（青葉会）の内容を充実	ア・青葉会を年間 12 回実施	ア ・若手育成は、青葉会を活用して進めた。(R 4 :12 回) (○)
		・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導	・2 点を重点的に指導する。	・落ち着いた雰囲気 で授業を開始できるよう指導した。(R 4 :3. 56) (○)
		・年度当初に、ユニバーサルデザインの視点に即した教室整備を実施	《授業規律》	・UD 化を意識しての授業展開ができた。(R 4 :3. 56) (○)
			「(授) 授業に集中して取り組む」	
	イ 教員相互の授業見学・研究授業の実施	イ・年 2 回の公開研究授業実施。校内外で実施される授業力向上に関連する研修、公開授業、に積極的に参加。成果を校内で共有	イ・研究授業・研究協議の実施	イ ・パッケージ研修等の一環として 6 教科で実施（6 回）。(○)
		・UD 授業の取組みで、本校生徒の理解がより深まる授業を実施	目標：5 回	・授業力向上を念頭に「育てたい人材像」の共有ができた。
			・年度末に授業力向上研修を実施し校内での共有化を図る。	(R 4 :86. 7%) (○)
			「(自) 授業改善を行っている」	
			目標：80%[76. 9%]	
	ウ ICT 活用による授業改善	ウ・校内の ICT 機器、大型プリンター等を活用し、UD 授業の視点に立った教材の作成	ウ・「(自)授業が分かりやすい」	ウ ・生徒が主体的に授業に取り組めるような授業展開を心掛けた。
			目標：72%[70. 3%]	(R 4 :78. 6%) (◎)
		・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。	※さらに改善に努める	・『授業内容に興味関心』(R 4 :3. 44) (△)
			・「(授)授業内容に興味関心」	前向きに取り組む生徒が増加したがそれが評価現れるよう工夫する。
			目標：3. 5 ポイント以上[3. 29 ポイント]	
	エ 規律ある授業に向けた生徒の遅刻削減	エ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を実施	エ・年間遅刻総数 5000 人以下	エ ・年間遅刻総数
		・遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行い、生徒の意識に働きかける。	[5143 人]	(R 4 :2539 人) (◎)

府立茨田高等学校

	2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上 ア 放課後学習の場（自習室・図書室）を整備し、教員が個別指導できる体制作り イ 読書習慣の確立 ウ ICTを活用したわかる授業による、成績不振による留年の防止 3) 生徒個々の進路目標に合った学力の育成 ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」「基礎教養講座」、習熟度別授業、補習などの内容の充実 イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習の積極的な実施 ウ 生徒の進路に応じた講座の充実による、進路希望の実現	2) ア・ 考查前、考查中の自習室と図書室への教員常駐と生徒に対する個別学習指導の実施 ・ 定期考查前の学習や長期休業期間後の課題学習など、時期に応じた生徒の個別学習を充実させるよう、各教科が教材準備や指導を実施 ・ 授業開始後に5分の規律指導、さらに「振り返り」「漢字」「計算」などの10分間の小テストを実施 イ・ 毎日の終礼、総合的な学習の時間、LHR、基礎教養などの時間を利用して、年間を通した「10分間読書」活動を企画実施 ウ・ ICT機器活用による生徒の授業理解をすすめ、年度末成績不振(欠席30日以下の生徒)による留年をなくす。 3) ア・ 「茨田検定」「基礎教養講座」等の充実で就職試験対策を実施し、丁寧な進路指導をめざす。 ・ 各中間考查後と夏季・冬季休業期間中に、座学教科の成績不振者への指名補習、個別指導を充実させ進級する生徒を増やす。 イ・ 応用的学力の習得のため、外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定・数検)等)を活用し、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。 ウ・ 進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を1年生から実施する。 ・ 充実した進路HRを展開し、就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を2年生から実施することで希望進路の実現をめざす。	2) ア・ 自習室を考查前、考查中には毎日開室 ・ 「(自)日常的に放課後学校での学習や、家庭での学習をする」 目標：50%[51.7%] ・ 英数国の小テストを実施し、学ぶ意欲を醸成。 「(自) まじめに授業に取り組む」 目標：85%[82%] イ・ 10分間読書を年間で10日実施 [10日実施] ウ・ 成績不振留年者対策： ICT機器活用を進め、より分かりやすく丁寧な指導で削減する。 目標：5名以内[11名] 3) ア・ 「(自) きめ細やかな進路指導」 目標：85%[80%] ・ 進級率の増加 目標：1年生85%の進級率 2年生95%の進級率 [1年63.7%、2年77.9%] イ・ 1・2年生全員が英検・漢検いずれかを受検する。 [R3：全員受検] ウ・ 進学、就職希望者対象用講習 開講講座数確保 [講座9講座 216名] ・ 進路決定未定者の割合を10%以下にする。[12%]	2) ア・ 参加生徒が固定化されているが徐々に参加人数が増えてきた。 (○) ・ 『放課後学習』R4：55.7% (○) ・ 英数国の小テスト実施 (○) ・ まじめに授業に取り組む R4：86.4% (○) イ・ 年2回に分け、10日間実施した。 (○) ウ・ 成績不振者対策 R4：9名 (△) ※評価方法や前向きに取り組む課題等を検討する。 3) ア・ CCの活用と3年学年団の丁寧な指導を行った。 『きめ細やかな指導』(R4：90%) (◎) ・ 進級率 (R4 1年：65.7%、2年：77.1%) (△) ※評価方法の改善と自習室や補習の強化 イ・ 授業を活用しながら取組み、英検・漢検を実施。(○) ウ・ 開設講座数 (R4：7講座 170名) (△) 生徒数減により講座数は減少した。前向きに取り組む生徒を増加させる。 ・ 進路未決定の割合 (R4：5%) (◎)
2 より良い人間関係づくりができる学校文	1) 安心・安全で、より良い人間関係作りの実現 ア 教員のコミュニケーション指導力の充実	1) ア・ 定例のコミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化を図る。 ・ 教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有し、教員のコミュニケーション指導力を向上する。 ・ いじめに対する教職員研修といじめ防止委員会の定期開催し、いじめの早期発見と対応に努める。	1) ア・ コミュニケーション委員会・コミュニケーション担当者会議の定期的実施(コミュニケーション委員会：年20回、コミュニケーション担当者会議：年3回開催) [18回・3回] ・ 「(自) いじめへの対応」生徒の肯定率 目標：85%[80%]	1) ア・ R4：委員会18回 担当者会議3回 (○) 充実したコミュニケーションHRになるよう検討事項はすべて実施できた。 ・ いじめ防止委員会主催の研修を実施 『いじめへの対応』R4：85.6% (○)

府立茨田高等学校

化 の 創 出	イ 教職員 PM 研修 の実施による、PM の理解と普及促進	イ・「PM」のテキストを活用し、教職員 PM 研修を 校内で実施し、校外にも普及を図る。 ・PM の技法を応用し、自分を大切にし、他者を 理解することをベースとした生徒指導を展開する。	イ・教職員 PM 研修年 1 回実施 ・「(自) カウンセリングマインドを取り 入れた指導を行っている」教員の 肯定率 目標：75%[66.7%]	イ・2月に教職員 PM 研修を実施 (○) 『カウンセリングマインドを取り 入れた指導』(R4:67.7%) (△)
	ウ 部活動の活性化	ウ・体験入部等、年度当初の新入部員獲得に向け た行事の充実 ・地域連携を活用した部活動の活性化 ・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を 招待したイベント「茨田高校フェスティバ ル」の開催	ウ・入部率の目標：40% [22.8%] ・茨田高校フェスティバルを年 1 回開 催	ウ・入部率 (R4:20.0%) (△) ・茨田高校フェスティバルを開催。 (○)
	エ 安全・安心な学 校づくり	エ・非常時に地域での役割を意識した防災体制の 構築。	エ・「(自) 災害等に対して役割分担の明確 化」目標：85% [79%]	エ・『災害時の役割の明確化』 (R4:71.0%) (△) 避難訓練で教職員にも危機管理の 徹底をしていく。
	2) 生徒のコミュニ ケーション能力向 上	2)	2)	2)
	ア 生徒のコミュニ ケーション能力の 向上機会充実	ア・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、 授業時でのあいさつ指導とともに全校的な 指導を徹底した上で、その効果をアンケート で確認する。 ・コミュニケーションをテーマとしたホーム ルーム(「コミュニケーション HR」)を実施 し、志学と連携したコミュニケーション教育 を充実する。 ・いじめを起こさない生徒の育成	ア・31 項目のコミュニケーション能力ア ンケートを年 2 回実施 (目標：24 項目以上で肯定的な回答の 数値 80%以上) [17 項目] ・コミュニケーション HR を年 3 回実 施。 ・いじめを受けたと答えた回答数 [累計 (夏) 29 件⇒ (冬) 13 件]	ア・コミュニケーション能力アンケー トの結果 R4:20 項目 (△) ・コミュニケーションHRの実施 R4:3 回実施 (○) ・累計 (夏) 11 件⇒ (冬) 8 件
	イ 『コミュニケー ションコース』の 内容充実	イ・「コミュニケーション総合」で落語家などの著 名人や大学教授等を招き、充実したコミュニ ケーション教育を継続する。 ・「PM I」「PM II」履修生徒の中から NPO 法人シ ヴィルプロネット関西によるメディアエー ター認定試験の合格者を出す。	イ・コース選択生徒アンケート「コースで 学んで話し方や行動が変わった」 (目標：80%以上) [85.7%] ・メディアエーター認定証取得者の増加 (目標：5 名以上) [3 名]	イ・『話し方等が変わった』 (R4:86.7%) (○) ・メディアエーター認定証取得者 (R4:4 名) (○) ※指導期間が短かったが一定の成果 が得られた。
	ウ 多文化理解と授 業でのプレゼンテ ーション実施によ る、英語を含めた コミュニケーショ ン能力の向上	ウ・「カルチャー・デイ」を実施することで、英語 などの授業で取り組んだプレゼンテーション 能力を活用する場を設ける。	ウ・高大連携による「カルチャー・デイ」 を 11 月に実施 [コロナ感染拡大を受けて中止]	ウ・カルチャー・デイの実施 コロナ感染拡大防止により未実施 (△)。
	エ 進路指導を通し てのコミュニケー ション能力の向上	エ・希望する生徒への面接指導や、職場訪問によ る『働く人』とのコミュニケーション機会を 増やす。	エ・学校斡旋就職希望生徒全員に応募前 職場見学を実施 [128 社 209 名] ジュニアインターンシップ実施 [コロナ感染拡大を受けて中止]	エ・応募前職場見学 (R4:107 社 128 名) (○) ※ジュニアインターンシップは、 新型コロナにより受入されず、 中止した。(△)
	オ 思いやりある生 徒の育成	オ 高齢者施設・障がい者との交流の場の設定、 障がい者差別解消法の趣旨の理解を図る。	オ・年 1 回の交流会を実施 [寝屋川支援との交流] ・生活福祉の授業での施設交流 [2 回実施]	オ ・寝屋川支援交流会を実施 (○)。 ・施設からの来校交流 2 回 (○)
	3) 教員の資質向上 ア 課題解決できる 教員の育成	3) ア 各教員が外部研修等の内容伝達を職員会議 で行い、粘り強く生徒へ指導する姿勢を持つ ことを、全教員が共有できるようにする。	3) ア・「(授)授業で知識技能が身につく」 目標：平均 3.5 ポイント以上 [3.31 ポイント]	3) ア・『授業で知識技能が身につく』 (R4:3.45) (△) 授業改善に努めた結果昨年より数 値は上がった。
	イ アレルギー・感	イ 最新の情報を取り入れ、食物アレルギー対応	イ 教職員研修を年間 2 回以上実施	

府立茨田高等学校

	染症への取組み ウ 中途退学・不登校生徒への対応 エ 生徒理解のための指導体制を確立	や感染症の拡大防止に努める。 ウ 家庭や中学校との連携を強め、きめ細かな対応を可能にするよう努める。 エ 生徒が納得感を持つ生徒指導を行うため、毎週の学年会、教育相談委員会、生指部会で指導状況の確認、点検	〔2回〕 ウ・情報収集のための中学校訪問回数 目標：20件〔18件〕 〔コロナ感染拡大を受け、電話での情報交換に切り替えた〕 ・「(自)担任以外に相談できる」 目標：75%以上〔73.6%〕 エ 「(自)学校生活において先生の指導は納得」目標 72%〔68.1%〕 ※さらに改善に努める	イ・生徒理解のための研修を2回実施(○) ウ・中学校との情報交換 21件(○) 訪問という形はできなかったが指導の参考となる情報交換ができた。 ・「(自)担任以外に相談できる」 (R4:83.2%)(◎) 教育相談委員会での情報を共有する環境づくりに努め、教員が生徒の状況を把握できるようにする。 エ・『先生の指導は納得』 (R4:72.9%)(○)
3 地域連携の推進	1) 地域連携を通じた生徒の成長促進 ア 地域活動への参加 イ 校内での地域の人々との交流 2) 中学校連携の充実 ア HPの充実 イ 中学校連携の充実	1) ア 地域自治体・自治会の要望を受け、地域活動へ積極的に参加 イ ・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の開催継続 ・今年度もPTA文化教室に地域の人の参加枠を設ける。 2) ア 学校HPを、1週間に1回更新する。 ・災害時の対応、行事、授業参観案内をプリント配布と共にHPに掲載し保護者にも周知 イ 在校生等が中学校訪問するなど、在校生の成長した様子が分かるような取り組みを行う。	1) ア・地域活動へ参加回数を維持する 目標：年間4回以上 〔コロナ感染拡大を受けて中止〕 イ・「茨田カップ」年間3回以上の開催 〔コロナ感染拡大を受けて中止〕 ・文化教室年1回の実施 〔コロナ感染拡大を受けて中止〕 2) ア・1週間に1回の更新を維持する。 〔毎週更新〕 イ・在校生代表や教職員が訪問し、学校生活の様子を説明。 目標：20校	1) ア・地域活動の参加 2回(△) 開催されなかったものもあったので回数は少なかったが、生徒会を中心に非常に好評であった。 イ・部員数不足により開催できなかった。(△) ・文化教室はコロナ感染症のため自粛した。(△) 2) ア・原則として、週1回の更新を実施した。(○) イ・中学校への訪問 6校(△) 在校生の成長した姿や頑張りを発信したかったが、しっかりした計画ができなかった。
4 校務の効率化で働き方改革の推進	1) 校務の効率化	1) 働き方改革の観点からICT活用の推進により業務の精選・効率化を図り超過勤務の削減に努める。	1) ・目標：月80時間以上の超過勤務の解消 年間延べ8名以下〔7名〕	1) 月80時間以上の超過勤務 R4:5名(○)